

ご挨拶

旭川赤十字病院 院長 真名瀬 博人



平素から当院連携医療機関の皆さまには大変お世話になり誠にありがとうございます。
日本赤十字社は、1877（明治10）年の西南戦争のさなかに設立された「博愛社」という救護団体が前身で来年設立150周年を迎えます。日本赤十字社の使命は『苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る』であり、当院の基本理念もこれに基づいております。現在、国際紛争の影響で物価高騰、物資供給不足があり今後の予測は非常に困難な状況であります。しかし当院では医療材料の確保に努め、診療体制の維持に努めてまいります。

今年度の診療報酬改定は経営状態の厳しい急性期病院に対して近年になく手厚く配慮されてはいますが、診療材料費や給与費の高騰をカバーするには十分ではないと捉えております。それに加えて急速に進む高齢化や人口減少、医療従事者の働き方改革、地域医療構想など、道北地域の医療における課題は山積状態です。しかしながら、これらの変化は、医療の質を高め、持続可能な体制を築くための転機でもあると捉えております。

当院では、本年4月に旭川医科大学救急部から新たに5名の医師を迎え、当院の救急患者さまに対する診療能力は大幅に向上・拡充しました。これは救急外来診療の質向上はもちろん、入院患者さまの重症化を防ぐ院内迅速対応チームの活性化にもつながっております。

救急患者連携搬送も積極的に行ってまいりますので密接な医療連携を今後ともよろしくお願いいたします。

総合診療科では昨年12月に平山智也医師が赴任され充実した新体制になりました。予約患者さまのみならず当日紹介や電話相談にも対応しております。

地域医療連携室ではWEB予約システム導入が決定し、多くの診療科で対応できるよう調整を進めております。これにより時間外や休日でも外来予約や共同利用（CT・MRI）の予約が可能となります。また患者さまがスマートフォンで日程調整が可能となるなどご紹介をいただく先生方の負担軽減にもつながると期待されています。

当院はこのパンフレットにあります28の診療科と152名の医師（内26名の研修医）で高度医療を地域の皆さまに提供し、連携医療機関の皆さまと共に地域医療を守ることを目指してまいります。

引き続き皆さまのご協力とご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。